サイレントナイト

あらすじ

妻に逃げられた役者の渡良瀬　勝也（３０）はクリスマスの夜、バー「よってこ」に入る。マスターに、役者を辞めると愚痴を言っていると女性２人組が入って来てそのうちの一人、影山　静子（３０）が初恋の人だと気づく。渡良瀬はは静子と思い出を語り合う。

ラッキーな偶然に気分は変わり、マスターにも励まされ役者を続けることにする。

○街の通り（夜）

あちこちにクリスマスの飾りつけがされ、多くの人が行きかっている。

渡良瀬　勝也（３０）が歩いている。

裏通りにバー「よってこ」の看板が立っている。

○バー「よってこ」内

薄暗く狭いバー。

カウンターの奥にマスター（４０）が立っている。

渡良瀬が入って来る。

渡良瀬「開いてる？」

マスター「ああ、いつもどうも。寒いですね」

渡良瀬「ああ」

渡良瀬はカウンターに座る。

マスター「何にします」

渡良瀬「いつものやつ」

マスター「ちょっと酔ってます？」

渡良瀬「家で飲んでたからね」
マスター「奥さんと？」
渡良瀬「いや……今日はどう。暇そうだね」
マスター「クリスマスにこんな店、誰も来ませんよ」
マスターは渡良瀬の前にカクテルを置く。
渡良瀬「逃げられちゃったよ。マイワイフに」
マスター「え、いつですか？」
渡良瀬「１週間くらい前かな」
マスター「この前来たときは和気あいあいとしてたのに」
渡良瀬「将来が見えないからって」
マスター「そうですか」
マスターは屈んで何かを掴む。
カウンターにケーキを置く。
マスター「お誕生日でしょ。おめでたくはないでしょうけど。せっかくだからどうぞ」
壁にかかった時計の針は、１２時を過

ぎている。

マスター「３０歳でしょ」

渡良瀬「覚えててくれたんだ。嬉しいなあ」

渡良瀬はケーキを一口食べる。

渡良瀬「うまい。ありがとう」

ドアを開けて女性２人が入って来る。

影山　静子（３０）と佐藤　正子（３２）。

マスター「いらっしゃい」

２人はテーブル席に座る。

渡良瀬は２人をちらりと見る。静子と目が合う。

正子「すっきりしたやつ２つお願いします」

マスター「分かりました」

マスターはカクテルを作り始める。

渡良瀬の前でシェイクしている。

渡良瀬「俺、役者辞めようかと思って」

マスター「まだ３０歳でしょ。続けましょうよ」

渡良瀬「先が見えないからなあ。いつまでも

アルバイトじゃ……」

テーブル席から、女２人の会話が聞こえてくる。

正子「いい人いた？」

静子「いや、全然」

正子「期待してたのに」

静子「村田課長は？」

正子「他の女に取られちゃった。２１歳の若い子」

静子「年上は対象外ね」

正子「しずちゃん、まだ若いじゃん」

静子「全然だよー」

渡良瀬は２人に目を向ける。

正子「この後どうする」

静子「家近くだから大丈夫」

正子「そっか。ごめん。私、終電なんで帰る」

静子「じゃあ、また明日」

正子「明日は休み」

静子「あ、そうだ」

正子「だいぶ酔ってるでしょ。私の分も払っといて。じゃあね」

と、１０００円をテーブルに置いて出ていく。

マスター「何か飲まれますか」

静子「同じものを」

渡良瀬「あの、失礼ですけどお名前教えてもらえません」

静子「影山静子といいますけど」

渡良瀬「中野高校に行ってませんでした？」

静子「ええ。あれ：：：渡良瀬君？」

渡良瀬「ああ、やっぱり静子だ」

静子「えー。ずいぶん変わったねえ」

渡良瀬「そっち行っていい？」

渡良瀬はグラスを持ってテーブル席に行く。

マスター「お知り合いで？」

渡良瀬「中学のころ、同じ演劇部で。初恋の人」

マスター「へえ」

○テーブル席

渡良瀬と静子が向き合って座っている。

渡良瀬「クリスマスに２人でディズニー行ったよね」

静子「あれは演劇部みんなでしょ」

渡良瀬「そうだっけ」

静子「２人で行ったのは花火。忘れないでよ」

渡良瀬「帰り道、道に迷ったよね」

静子「そうそう。川沿いのホテル。思い出すなあ」

○（回想）ラブホテル前

ネオンの輝くラブホテル前。渡良瀬（１７）と静子（１７）が入り口前に立っている。

渡良瀬「入ろう」

静子「大丈夫？」

渡良瀬「ちゃんとチェックなんてしないっし

ょ」

○（回想戻り）テーブル席

静子「結局一晩カラオケしてた。笑えるわ」

渡良瀬「ああ。子供だったからな」

マスター「なんかいやらしい話してません？

何か食べますか」

静子「全然いやらしくない」

渡良瀬「何か食べる？」

静子「任せる」

渡良瀬「ナッツ盛り合わせ下さい」

マスター「はい」

渡良瀬「今は彼氏は？」

静子のスマホが鳴る。

静子「もしもし。うん、あと1時間くらいで。

クリスマスにごめんね」

渡良瀬「って、いるのか」

静子「うん。同棲してる」

渡良瀬「合コンだったんじゃないの」

静子「人数合わせで付き合っただけ。渡良瀬

君は」

渡良瀬「俺は……」

マスター「きれいな奥さんがいたんですけどね」

渡良瀬「連絡先交換しようよ」

静子「いいよ」

と、スマホを取り出す。スマホの待ち受け画面に男の顔写真。

渡良瀬「この人が彼氏？」

静子「そう。会社の先輩」

渡良瀬「会社勤めなんだ」

静子「ここのすぐ近く」

渡良瀬「へえ、このバーは初めて？」

静子「うん。正子が少し休んで行こうって」

渡良瀬「さっきの子か。マスターどうよ、この偶然。たまたま入ったバーで」

マスター「運命なんじゃないっすか」

渡良瀬「運命だな」

静子「渡良瀬君は近くに住んでるの」

渡良瀬「歩いて２０分くらい。静子は」

静子「隣の駅だよ。池尻大橋」

渡良瀬「あそこか」

マスター「渡良瀬さん、絶対持ってますよ。お芝居続けたら」

静子「まだ演劇やってるんだ」

渡良瀬「もう少し頑張ってみるかな」

○バーの外（夜）

渡良瀬と静子が立っている。

渡良瀬「じゃあ、俺こっちなんで」

静子「ばいばい。また連絡して」

渡良瀬「うん。また飲もう」

店を出ると、街には「サイレントナイト」の曲が流れている。

２人は手を振って別れる。渡良瀬は晴れやかな表情。

住所　埼玉県蕨市南町３の１３の２の２０３
氏名　筆名　吉田　浩二　本名　吉田　浩治
電話番号　０９０２３１３７３８０
メール　ky4931120@gmail.com